

循環器内科

循環器内科医長： 渡邊 敦之

「指導医・指導体制と科の概要」

常勤医師7名とレジデント4名の計11名で、入院・救急外来での診療、指導にあたる。常勤医師は全て日本循環器学会認定循環器専門医で、他に心血管カテーテル治療専門医、不整脈専門医、超音波専門医を擁する。入院患者では各々担当している常勤医師及びレジデントとともに診療にあたることになる。平成31/令和元年度の新入院は1939人、平均在院日数6.2日であり、1日あたり平均33人の入院患者をCCU4床を含む循環器病棟(5-A、9-B)において診療している。全症例の内訳は、心筋梗塞を含む虚血性心疾患が45%、肺循環疾患が25%、各種心不全が15%、不整脈が10%となっており、対象疾患と治療の緊急性から循環器科単独でのCCU当直をおき、24時間・365日体制で診療に当たっている。平成31/令和元年度には冠動脈インターベンション治療373件、末梢動脈インターベンション31件、肺動脈インターベンション238件、心臓超音波検査5012件、ペースメーカー移植術・交換術69件を行った。心臓電気生理検査・カテーテルアブレーションについては、不整脈専門医渡邊医長赴任後に著明に件数が増加している。

「研修の概要と特徴」

当院の循環器科の研修では疾患概念、鑑別診断や薬物療法・非薬物療法の選択の実際を経験し習得する。担当症例において理学的所見のとり方を習得し、12誘導心電図・心エコー図の記録と読影を習得する。心臓カテーテル検査では、右心カテーテルの手技と解析、動脈穿刺を習得する。また冠動脈造影を含む画像検査の読影を習得する。当院では急性・慢性心不全症例はもちろん、虚血性心疾患・弁膜疾患・心筋症・肺高血圧症・不整脈の症例を幅広く且つ偏りなく経験することができるのが特徴である。更に、当院では総合病院である特性を生かし、他科との連携の上で多臓器合併症を持つ患者さんに対しても幅広く対応しているのが特徴である。

「初期研修の基本指針」

1. 主要症候の理解と理学的所見の習得
 - ①胸痛、動悸、呼吸困難、失神の鑑別
 - ②聴診(心音、心雑音の聴取とその成因の理解)
2. 検査、画像診断の理解と習熟
 - ①標準12誘導心電図 ②運動負荷心電図 ③心エコー図(経胸壁、経食道) ④心臓核医学検査
 - ⑤心臓カテーテル検査(冠動脈造影等の心血管造影検査、右心カテーテル検査ほか)
 - ⑥電気生理学的検査
3. 循環器疾患の治療法の理解と習熟
 - ①循環器系救急処置:循環管理、心不全、不整脈の救急治療(電氣的除細動)
 - ②主要循環器疾患の診断、治療・虚血性心疾患・心不全(含弁膜疾患・心筋症・肺高血圧症)
主な頻脈性・徐脈性不整脈

③循環器系薬物療法の理解と実践:利尿剤、強心剤、抗不整脈剤、血管拡張剤、β遮断剤、降圧剤等

④循環器系非薬物療法の理解

(ア)インターベンション(冠動脈、末梢動脈、頸動脈、肺動脈)、心肺補助治療(IABP, PCPS,等)、不整脈非薬物療法(ペースング治療、カテーテルアブレーション)

(イ)運動療法、心臓リハビリテーション(心肺機能検査)

4. 全人的な診療の習熟

人間的、社会的、心理的理解に基づく診療、予後不良・重症患者(心筋症、重症不整脈)や遺伝的疾患患者等への精神的指導、支援

「研修予定表」

行事	曜日	時間
循環器シネカンファレンス 循環器新患・CCU カンファレンス	月～金	8:30-9:00
循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス	水	8:00-8:30
循環器抄録会	木	8:30-9:00

「修練目標:経験すべき症例・手技と研修評価」

疾患名	経験する手技と習得すべき知識	経験症例数
急性心筋梗塞	心エコー図:壁運動異常の診断	2例以上
	冠動脈造影:読影法の習得	2例以上
	心肺機能検査:運動耐用能評価法の習得	2例以上
狭心症	冠動脈造影:読影法の習得	5例以上
肺高血圧症	右心カテーテル法の習得	2例以上
心不全	心エコー図:心機能評価方法の習得	2例以上
	右心カテーテル法の習得	2例以上
弁膜症	心エコー図:弁膜症の重症度評価の習得	2例以上
徐脈性不整脈	一時ペースング:ペースングリード挿入手技の習得	1例以上
頻脈性不整脈	除細動:電氣的・薬物的除細動手技の習得	1例以上

「研修評価」

- ・ 研修医の評価:院内の研修マニュアルに従って上記症例・検査手技を最低限経験した後にEPOCにより自己評価、指導医による4段階評価を行う。
- ・ 指導医の評価:自己評価と研修医による評価を行い、臨床研修委員会にて審議の後、指導医に還元する。
- ・ 研修プログラムの評価:循環器科ローテーション中の問題点に関し、臨床研修委員会にて審議する。

「将来の進路(専門研修に進んだ場合)と取得資格」

専門研修では観血的診断・治療技術の習得を主目的とする。内科研修1年目に6か月間当科で研修する場合、冠動脈造影検査はすべて原則術者として参加し、200件程度の心臓カテーテル検査を経験する。その他40件程度のインターベンションと5～10件程度のペースメーカ移植術を助手として、経験する。2年目は院外の連携施設で研鑽を積んだのち、3年目には年間300件の心臓カテーテル検査、30件程度のインターベンションと10件程度のペースメーカ移植術を術者として経験する。後期研修終了後は大学院進学、他院への常勤医師での赴任などさまざまである。

当院は心血管インターベンション学会治専門研修施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本脈管学会認定研修指定施設、植え込み型除細動器植え込み認定施設・心臓再同期療法施設・リードレスペースメーカ実施施設、バルーン肺動脈形成術指導施設であり、多方面における専門的研修が可能である。

日本循環器学会認定循環器専門医

循環器科の専門医資格は、循環器研修(内科研修と並行できる)を3年以上行った者に受験資格が与えられる。新専門医制度の詳細については未定の部分も多く、当科としても注視しているが、各自でも確認のこと。